

弥栄における地元学の生成を見て

地元学ネットワーク主宰 吉本哲郎



弥栄には たたら製鉄の歴史がある

- **行き過ぎた石油依存型の近代化の問い直し**
横につながり、**弥栄なりに脱温暖化につなぐ。**
- **当事者づくりに力点**
まずは人が元気になること。あるもの探し。生活の様子を聞く。
地域と人の持っている力を引き出し、**弥栄に住む自信と誇りの回復につなげる**
- **次の段階は活用。**しかし調べたことを考え熟成・発酵する時間が必要。人々の心に染み渡る時間も必要。
- **戦略的には、地元の課題を創造的に解決していく方法**をとり**脱温暖化に向けた行動をとともに展開したい。**

1 弥栄の現状：厳しい現実の一端
昭和50年の人口 2,505人
現在 1,540人
高齢化率 42.9%
1世帯あたり2.2人
1人暮らしも多い。



2 何が問題で、何をどう変えるのか

●弥栄 多様な森・仕事・暮らし
お年寄りが多いけれど元気
なつかしいもう一つの日本

●石油依存型近代化社会の作り直し
それは弥栄でどのように可能なのか



3. どうやって変えるのか：

3-1 主体は誰か？

■地元

- ・ 地元の自治会と住民たち
- ・ 郷づくり事務所及び役場職員

■外部の専門家

- ・ 島根県中山間地研究センター／島根県立大学／地元学ネットワーク ほか

3-2 どういう方法で変えるのか

- 地元学の考え方と方法で
自ら調べる、考える、役立てる
- 人が元気・自然が元気・経済が元気
になることを目指す
- ないものねだりをやめてあるものを
探し、
- 新しく組み合わせ、新しいものをつ
くっていく。
そうしないと衰退するから



4. 弥栄でやったこと 調べる段階が主

三つの地区（小角、大坪、小坂）で
あるものの探し、絵地図と一代記の作成

■絵地図：畑、暮らしの様子 など

■一代記

●河野勝さん富子さん夫婦の暮らし

●弥栄に生きる小松原悦子さん（73歳）

●じいちゃんたちとものをつくる藤井さん

●ほか：一人生きる黒川静子さん／小坂に生きる
小松原峰雄さん／小さな谷の主鳥越夫婦／

北岡徳美さん（83歳）ヒロエさん（86歳）など



調べたことを絵地図にして地元の人と 発表



それぞれに
人生があるのだった



「懐かしいねえ、人と会い話すのが楽しい・・人恋しいねえ」





農家民泊がある
そう 弥栄に泊まる とは
ここに生きる人たちの
ここで楽しむ暮らしを
少し分けてもらおうことだった

持って行くかい？



また来なさいよ



北岡徳美さん(83歳)ヒロエさん(86歳)
じいちゃんは、山仕事で家族を育て、
ばあさまは、畑で野菜を、田んぼで米をつ
くり、家族を育ててきた



ここは熊も、いのししも友だち友だちが来んように柵をしとる

医者から、ウツですかと言われた。しらんわ。薬飲んでるけど、この二年くらいなかなか動きたくなくてね。



主人が春に亡くなって、
秋に畑で働いていたら、
小さい黒い猫がちょこん
とやってきた。

「ここにおるかい」と
言ったら、そのまま居つ
いてしまった。

だから、13歳になるな。
一人暮らしじゃないよ、
猫がいるよ。

「働いてきた手やねえ！」

「おいと」いっしょたい」



「母ちゃんに、先に惚れたんかい。良か男やけん、先に母ちゃんが惚れたんかい」 「はーっ!？」



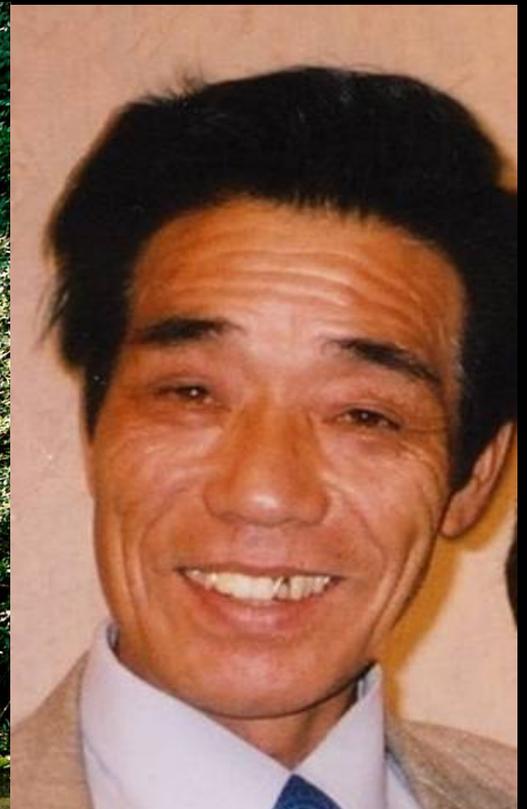
**小さな谷の棚田。ここだったら生きられる、
そんな思いが湧いてくる風景だった**





鳥越英雄76歳 千代子75歳は
この小さな谷の主、2人は、山を仕立
て、米や野菜をつくい生きてきた

**このままではいけないという自治会長たちの思いを受け
みんなは一人のために、一人はみんなのために、
共同の心をつくり、
弥栄は小坂のためにスクラムを組みたいものだ。
前へ前へと押し渡りたいものだ。
そこには、人が元気で、自然も元気で、
お金の経済と共同する経済と自給自足の経済が元気な弥栄
そして小坂の姿があらわれてくるはずだ。**



5 考察～調べたことを考え 役立てるために

5-1 弥栄でおきたこと

- それまで 信頼づくり
雪おろしなどの手伝い

- 自分たちで調べはじめた
一部ゆずがらしの使い方／鍋料理開発の試み
考えどう活用するかはこれから

- その後の動き

来た人たちに地元の食事提供
郷づくり事務所で「米のゆくえ」調査
郷づくり新聞の発行
浜田市で「おいしい弥栄市」





ゆずがらしを興味深く見つめる視察参加者



手際よく準備をすすめる大坪のお母さん方



真剣に聞いて頂けた場面あり、笑いあいの報告会になりました。



全員が一つの輪になって、意見交換をしました。前も後ろもない空間だと、積極的な意見がでます。

5-2 観えてきたこと その1・「おいしい弥栄づくり」 から「生活大村へ」



その2 弥栄の個性の把握が重要

その3 ものづくりは大事なこと



その4 生活大村弥栄に向けて 職人の誘致 アトピーのない村の売り出し、 教育環境を整える 若者の働ける仕事をつくる



その5・重要なことがある



●弥栄の暮らしを楽しむことだ

●女性の力をいかしたいたいものだ

●人づくりではなく、自分育てへ

6. これから

弥栄全体で、
着地点を発掘し
調べていくこと
「米のゆくえ」
「水のゆくえ」
「木のゆくえ」
が大事になる



まとめにかえて

●村人たちが 大事にしてきた
ことを共有し 弥栄に生きる
思想にしたいものだ。

●言葉の手がかい

「森はありがたい。感謝、山の神」

「村はうっとうしいけどありがたい」

「先祖の築いた資産を受け継ぎ
ながら工夫。それが伝統。」

「生きる風景は美しい。

生産し生存する風景」

まだまだある





冬枯れの
空に行きかう
雲の群
木々の芽吹きに
春をみる



おいしい弥栄市 つながる弥栄 元気に弥栄 小さな村の大きな試みへ

「中山間地域に人が集う共通項は「餅（餅ど）」。作り、平成21年度から
つながる弥栄
ここでいっしょに暮らそう～次世代の定住（郷土



平成22年3月22日（月・休）18:00～20:00
弥栄ふるさと体験村 多目的研修室



餅つきのテントでは、パック詰めされる餅を待つ行列ができました。



三浦功さんの指導による椎茸の駒打ち教室



「弥栄が大好き!」といつも話される須山県議も駆けつけてくださいました。



弥栄と言えば「どぶろく」。お客さんほどぶろくを楽しみにされていたそうです。